

## 1 授業記録

### 場面1について

〈ごみ問題とはどんな問題なんだろう〉という学習課題を提示し、一人ひとりに考えさせた。この学習の前には、社会科の一環として、社会科見学をしている。見学をした場所は戸室埋め立て場、戸室リサイクルプラザ、末浄水場、城北水質管理センターである。社会科の授業や、見学をもう一度想起させながら、どんなことが問題となっているか話し合わせた。

子どもたちからはすすんで意見を出し合った。ごみのポイ捨てや、埋立て場の問題、ダイオキシンや煙などの環境問題などが話し合われた。これは、社会科見学で見たり聞いたりした情報を出し合ったものがほとんどであった。図書館やPCで調べた結果からも、同じような問題が出てきた。ここで、教師が整理をして埋立て場がなくなってしまう問題と、環境の問題、不法投棄や埋立て場を作るための資金などの問題という大きな三つに整理したことで、情報が関連し合い、どのようなものがごみ問題なのかを見つけることができた。

## 2 成果と課題

「見つける力」をつけるために、社会「興味をもつ」国語「思いをもつ」という力をねらった。ごみ問題という身近な問題が今差し迫った危機として捉えることができるか話し合わせたが、なんとなく大変なんだなという思いでしかなかったように思う。興味を持って、話し合いをすることができたが、子ども達だけでは、ごみ問題とはなんだろうという明確な思いをもつところまでたどり着かなかったように思った。

教師が大きく三つのまとまりを提示したことで、解決すべきごみ問題の実態が見えてきたように思う。このように教師の出る場面を想定し、行動することができたので、どのようにしたらごみ問題が解決することができるかという思いを一人ひとりが持つことができた。